

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
ふれあい・学び・いやしの交流拠点の構築 絹ふれあいの郷と寺野東遺跡周辺が再整備され、直売所やドッグランに加え、移動式の診療所やスーパーが集結し、遊具や広場の再整備で多世代の憩いの場となり、動物ふれあい体験・イチゴ狩り・縄文時代体験など多彩な観光が楽しめる拠点となっています。また、結城七社巡りや小山・結城家の関連イベントなど、結城市との交流が活発になっています。高椅神社の例大祭では伝統芸能が披露され、絹ふれあいの郷では食を楽しむ祭りを地域内外の人が楽しんでいます。	・ふれあいの郷を中心として盆踊りの復活（昔は学校の校庭でやっていた）。 - 以前は結城市の商店街から協賛金を集めていた、生活圏は結城市のため ・移動スーパーの誘致（カスミが無償で提供しており、聞きに行ってみたい。） ・おまつりの復活	・ふれあいの祭りの拡大 ・体育祭などの住民がふれあえる催しものの開催 ・絹地区全体で盛り上がるイベント（体育協会も高齢化している）。各地区対抗戦をやっていたが、今後は皆で楽しむ内容 ・若い人同士の交流をしていきたい ・絹地区全体のお祭りや運動会を開催して交流を深め ・お祭りは外に出た人も帰って来て参加している ・お祭りの開催	・絹地区はスーパーがない、コストコみたいな大規模店舗が出来れば人も来る ・移動スーパーを絹地区に呼びたい ・絹地区で定期的な診療ができるよう当番制で医者を派遣 ・子どもたちが遊べる場所の整備。そこに行くまでの安全な歩道と街灯整備 ・公園がまったくない。公園をつくり集まれる場所を ・高椅神社、絹ふれあいの郷、やすらぎの森、いちご狩りなどの見所を回れるような取り組み	・絹地区全体や桑地区と協力してお祭りをしたい。（桑と絹はつながりがある。協力してイベントなんかができれば） ・市外（結城市）との交流、繋がりを深めたい	
公共交通の充実による利便性の高まり 自動運転・AI 技術による公共交通の導入で、下野市や結城市とのアクセスが向上し、通院・買い物が快適になり、高齢者の移動を支える絹地区社会福祉協議会の「のらっせ・きぬ」は、観光ガイドツアーを担うなど新たな活動が広がっています。グリーンスローモビリティの導入で、自宅付近からの移動が可能になり、目的に応じた移動手段の選択肢が増えています。		・のらっせきぬのボランティアを増やしたい ・オンデマンドバスの活用、それらを皆に知ってもらうこと	・地区社会福祉協議会の充実（よらっせ絹）高齢者の送迎をやっている。この団体は任意団体であるため、継続するためには役員がいらない、社協とのつながりを経費の問題もある。 ・人が来やすい環境づくり ・絹地区の中心の道路ですら歩道がないから整備したい。	・公共交通の充実、結城市との乗り入れをしてほしい	
地域で支え合う農業と新たな担い手の呼び込み 地域の農業を住民が支える CSA が定着し、住民が消費と生産の両面で農業に関わり、田園風景と食が守られ、農繁期には地区を越えた協力体制が日常化し、収穫物は給食やカフェでも活用され、地域の味として親しまれています。農地付き空き家の紹介を通じて担い手が増え、空き家は移住者の住居や店舗として活用されています。	・地産地消をアピールしていく	・部分的ではなく地域全体での芝焼 ・空き家の活用。移住者向けやキノコ栽培 ・農地を転用して色々使えるようにしたい。（担い手不足。放棄地になるにであれば、別の利用方法を検討したい。）	・環境はいいが、古い家が多く、若い人が好む住宅が建てられない ・移住者支援だけでなく人口流出を減らすための支援 ・空き家対策、農地の活用	・堀ざらいや除草作業をイベント化してボランティアを都市部から来てもらう ・都市部では体験できない森での遊びなどのイベントの開催 ・農業体験を通して他地区の方と自然を楽しむ取り組み	

ビジョン	自分自身でやりたいこと	地域の仲間とやりたいこと	小山市と共創したいこと	他地区と連携してやりたいこと	優先順位
地域コミュニティの見直しで高まる自治力 自治会や消防団の再編で負担の偏りが解消され、移住者や若い世代もまちづくりに関心を持ち始め、課題に自ら向き合い、話し合いと協働によって取り組む意識が高まり、自治力が向上しています。	・自治会の活性化させていきたい	・自治会の再編をしてある程度まとまった軒数にしたい ・高齢化対策を地域で考え、自分が出来ることがあれば協力したい ・子ども達が戻って来てくれるような魅力的な地域にしたい	・以前「元気発掘事業」で地元の地区を知ろうという取り組みがあった		
豊かな水源と共に過ごす 鬼怒川・田川の水害対策が進み、AI による避難通知で、迅速かつ的確な避難行動が可能になりました。また、鬼怒川の河川敷にはサイクリングロードが整備され、バーベキューや釣りなど自然を満喫できるスポットが整っています。	・高齢者の安否確認ができるようなツールの導入	・絹地区周遊できるサイクリングロード	・鬼怒川の河川敷にキャンプ場の整備。		
地域教育と文化の継承 結城紬の工程を学ぶ授業は、住民が講師やスタッフとなり、こどもと大人が共に学び合い交流を深め、「結城紬商品開発コンテスト」では様々なアイデアが商品化され、市内外に手に取りやすい価格で販売され、こどもたちの挑戦が地域の PR に貢献しています。	・部活の手伝い。グループで持ちまわり	・伝統行事の継承のために若手の地域活動参加を促したい	・小中学生に自分が絹地区の観光大使になったらどうするかを聞いてもらう		
そのほか	・SNS で絹地区の魅力を発信する ・地区外から絹に越して来たが、不便な地域だとわかって越して来たので、何も意見はない	・新しい人や文化を受け入れる準備 ・足し算して考えるだけでなく現実をみて引き算で考えることも必要	・若い人（野球選手など）が住むためのアパートなどを建設して地域貢献してもらう ・絹地区を出た若者に聞き取り調査 ・調整区域である以上人が増えないためどうにかしたい。 ・やすらぎの森の利用、休憩所が個人の管理のため行政にやってほしい ・絹地区の高齢化について、具体的な数字が出ていたら知りたい		